

授業概要

- ・興味関心のある分野を広げるために、世の中の事象や時事問題について探求する姿勢を獲得することを目標として指導します。
- ・論文作成を通じて、文書の書き方、図表の作成、情報収集といった実力を習得するように指導します。
- ・文献検索をくり返し行い、情報リテラシーを獲得するように指導します。
- ・来年度の卒業論文作成への動機づけを高めるような声かけ、指導をします。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第 2 回	論文・資料の集め方 1	第17回	より詳細な論文、資料の集め方 1
第 3 回	論文・資料の集め方 2	第18回	より詳細な論文、資料の集め方 2
第 4 回	論文・資料の集め方 3	第19回	卒業論文の書き方 1
第 5 回	発表資料の作成方法 1	第20回	卒業論文の書き方 2
第 6 回	発表資料の作成方法 2	第21回	卒業論文の書き方 3
第 7 回	発表資料の作成方法 3	第22回	各自発表：卒論進捗状況報告 1
第 8 回	各自発表 1	第23回	各自発表：卒論進捗状況報告 2
第 9 回	各自発表 2	第24回	各自発表：卒論進捗状況報告 3
第10回	各自発表 3	第25回	各自発表：卒論進捗状況報告 4
第11回	各自発表 4	第26回	各自発表：卒論進捗状況報告 5
第12回	各自発表 5	第27回	各自発表：卒論進捗状況報告 6
第13回	各自発表 6	第28回	各自発表：卒論進捗状況報告 7
第14回	各自発表 7	第29回	まとめ
第15回	まとめ	第30回	卒論発表予行演習 1 回目
		第31回	卒論発表予行演習 2 回目

到達目標

- ・テーマをしぼり、卒業論文を書く力を身につけることができる
- ・テーマに関連する文献や資料を収集する力をつけることができる
- ・文献や資料の内容を理解できる
- ・仲間の意見などを聞き、理解し、自分の卒業論文に反映させて行くことができる

履修上の注意

- ・無断欠席は認められません。理由があり、出席できないときは必ず「ほうれんそう：報告・連絡・相談」をすること。全回出席するという強い意志を持って参加すること。

予習・復習

- ・卒論さくせいに時間と労力をかけること。
- ・スマホだけでなく、自分の頭、手、耳、目、足など自分の持てる力すべてを活用して調べること。

評価方法

評価基準は授業への参加と発表(3割)、授業中の課題への取り組み(3割)、期末試験(4割)である。

テキスト

テキスト、資料、論文、参考書等については、必要に応じて授業の中で紹介する。

授業概要

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文の完成につながるよう指導する。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく過程で、研究課題への理解が深まるよう指導する。また、毎回、プレゼンテーションを行う機会を提供し、これまで学んだことを心理学的視点で考えられる応用力、論理的思考力へつながるよう指導する。
なお、心理・福祉の現場を学ぶ機会として施設に見学する可能性もある。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	関心のある研究論文の発表 1	第17回	更なる論文、資料の収集の仕方
第3回	関心のある研究論文の発表 2	第18回	方法の検討 1
第4回	テーマの設定	第19回	方法の検討 2
第5回	先行研究の読解 1	第20回	調査・実験の実施 1
第6回	先行研究の読解 2	第21回	調査・実験の実施 2
第7回	先行研究の読解 3	第22回	調査・実験の実施 3
第8回	先行研究の課題 4	第23回	結果の整理 1
第9回	先行研究の課題 5	第24回	結果の整理 2
第10回	問題点の討論 1	第25回	考察のまとめ 1
第11回	問題点の討論 2	第26回	考察のまとめ 2
第12回	問題点の討論 3	第27回	卒業論文の執筆 1
第13回	問題と目的のまとめ 1	第28回	卒業論文の執筆 2
第14回	問題と目的のまとめ 2	第29回	卒論発表予行演習 1
第15回	問題と目的のまとめ 3	第30回	卒論発表予行演習 2

到達目標

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。
- ・自身の研究課題を他者に分かりやすく伝えることができる。

履修上の注意

- ・無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- ・主体的に参加すること。
- ・毎回の授業内容をノート等に記録すること。

予習・復習

- ・毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

評価方法

卒業論文と卒論発表(70%)、毎回の課題提出等(30%)をふまえ、総合的に評価する。

テキスト

- ・特になし。必要に応じて紹介する。

授業概要

まず、個々の研究課題に基づく研究計画の立案に向けて指導する。次に、それぞれの計画に沿って準備をしたうえで、滞りなく研究を進行できるように指導を進める。具体的には、調査研究の場合には、データ収集から分析、解釈、執筆の各プロセスに沿って指導し、課題研究等の場合には、内容や構成を整えたうえで最終成果としてまとめ上げていくための指導を行う。いずれにしても、形式と内容を整えた卒業論文又は卒業研究の完成に向けて指導する。

授業計画

<前期>		<後期>	
1	研究計画の立案① (研究計画の検討)	1	データ解析① (データの整理, 解析準備)
2		2	
3		3	データ解析② (データ解析, 結果解釈等)
4	研究計画の立案② (研究方法の具体化)	4	卒業論文執筆/目次, 構成
5		5	卒業論文執筆/序論①
6		6	卒業論文執筆/序論②
7	研究計画の立案③ (研究方法の精緻化)	7	卒業論文執筆/目的
8		8	卒業論文執筆/方法①
9		9	卒業論文執筆/方法②
10	研究実施準備 (質問紙調査等の準備)	10	卒業論文執筆/結果①
11		11	卒業論文執筆/結果②
12		12	卒業論文執筆/考察①
13	研究実施 (質問紙調査等の実施)	13	卒業論文執筆/考察②
14		14	卒業論文執筆/結論
15		15	卒業論文執筆/要旨

到達目標

- 1. 文献研究を踏まえた研究計画の立案ができる。
- 2. 研究倫理を適正に遵守して、研究を実施することができる。
- 3. 研究目的に応じて、適切な研究方法を選択することができる。
- 4. 卒業論文研究としての形式と内容を踏まえて、卒業論文又は卒業研究を作成できる。

履修上の注意

自ら主体的、積極的に取り組むこと。わからないことがある場合には随時質問し、解消すること。

予習・復習

予習：疑問点や検討点を整理する。
復習：授業内での指導を踏まえた振り返りと作業の進行

評価方法

卒業論文又は卒業研究への取り組み 50%, 卒業論文又は卒業研究の到達度 50%によって評価する。

テキスト

使用しない。必要な文献は適宜紹介する。

授業概要

心理学に関連するテーマ（特に臨床心理学・健康心理学・ポジティブ心理学・カウンセリング分野）で卒業論文を作成しようと考えている学生が対象です。この授業では、卒業論文の作成に必要な技術を学習します。具体的には、春期では関心のある先行研究の要約の発表や追試等、秋期では各自が関心のテーマの発表や構想発表等を行う予定です。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（発表順の決定等）	第 16 回	ガイダンス等
第 2 回	前年度の春休み中に取り組んだ卒論の	第 17 回	データ収集方法の確定とデータの収集
第 3 回	進捗状況を発表	第 18 回	
第 4 回	（1 回に 3 人の発表と質疑応答）	第 19 回	
	文献の検索方法		
第 5 回	前回の発表で指摘された点を改善・発展	第 20 回	分析と結果の読み取り
第 6 回	させた各自の発表	第 21 回	
第 7 回	（1 回に 3 人の発表と質疑応答）	第 22 回	
第 8 回	研究計画の確定	第 23 回	本文の執筆、推敲
第 9 回	（1 回に 2 人の発表と質疑応答）	第 24 回	
第 10 回		第 25 回	
第 11 回		第 26 回	本文の完成と提出、卒業論文発表会の準備と発表予演
第 12 回	データ収集方法の選定	第 27 回	
第 13 回	（1 回に 2 人の発表と質疑応答）	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

到達目標

- ・ 先行研究と自分の研究の異動を理解し、説明することができる。
- ・ 自分の研究の目的と仮説に合ったデータを取得し、分析して結果を読み、考察を書くことができる。

履修上の注意

発表担当の週に無断欠席をした場合は、評価の対象から除外します。

予習・復習

各ゼミ生の進捗状況に合わせて、次回の発表までに用意しておく資料や準備しておくレジュメ等を指示するので、指示を守ってください。指示を守れない場合、卒業研究の作成に支障を来す場合があるので自覚しておいてください。

評価方法

授業への参加態度(10%)、発表時のレジュメ(30%)、発表の仕方(30%)、卒業論文の内容(30%)などを総合的に評価します。

テキスト

学生が作成したレジュメを使用するため、テキストは指定しません。

授業概要

これまで大学で学んだことを踏まえ、心理学領域の研究と卒業論文の執筆を指導する。各人が興味のあるテーマを定め、先行研究を調べ、研究方法を検討し、結果・考察としてまとめ、最終的に卒業論文を執筆・提出できるよう指導していく。各人で考え、取り組んできたことを、プレゼンテーションなどを用いて発表し、それに対するフィードバックやディスカッションをする機会を取り入れていく。なお、心理支援の現場を学ぶ機会として、施設見学もしくは企業(団体)訪問をする可能性もある。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	関心のある研究論文の発表	第 17 回	目的に即した方法の検討
第 3 回		第 18 回	
第 4 回		第 19 回	調査の準備
第 5 回	研究テーマの設定	第 20 回	
第 6 回	先行研究の報告	第 21 回	調査の実施、データ収集
第 7 回		第 22 回	
第 8 回		第 23 回	データ分析、結果の整理
第 9 回	問題点の確認・討論	第 24 回	
第 10 回		第 25 回	考察の検討
第 11 回		第 26 回	
第 12 回	問題と目的の検討	第 27 回	卒業論文の執筆
第 13 回		第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	まとめ、スケジュール設定	第 30 回	卒業発表予行練習
		第 31 回	

到達目標

- ・自身が定めた研究テーマに基づき、必要な文献や資料を収集し、内容理解のもとまとめることができる。
- ・心理学論文としての形式に則り、卒業論文を作成できる。
- ・研究結果を、わかりやすく発表することができる。
- ・教員や学生同士との良好なコミュニケーションのもと、研究活動を主体的に進めることができる。

履修上の注意

- ・合理的な事情がない限り、毎回出席をすること。
- ・メールや Teams を活用し、連絡や情報共有をすること。
- ・意欲的に授業に参加する姿勢を持ち、授業時間以外の自主的な学習時間も想定すること。
- ・仲間同士から学び合う姿勢を持ち、協力・協働をすること。

予習・復習

- ・毎回の課題について、自ら積極的に取り組むこと。
- ・毎回の資料や情報を、ファイリングし、必要な情報はノートに記録すること。

評価方法

授業態度と課題提出(30%)、卒業論文と卒論発表(70%)により総合的に評価する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。
参考図書などは必要があれば、授業内で紹介する。

授業概要

これまでの学びの集大成として、心理学研究の実施と、それに基づいた卒業論文の執筆ができるよう指導する。具体的には、各自の興味のあるテーマについて先行研究をレビューしたうえで、研究目的を明らかにし、研究計画を立てる。さらに、研究計画に基づいて調査もしくは実験を実施し、収集したデータについて分析し、その結果を考察して卒業論文としてまとめられるよう指導する。なお、日時は未定であるが、心理支援の実際を学ぶために、外部の施設に見学に行き、研究と臨床の繋がりについても指導をする。

授業計画

第 1 回	進捗状況の振り返りと今後の課題設定	第 16 回	方法の執筆①
第 2 回	先行研究レビューの作成と発表①	第 17 回	方法の執筆②
第 3 回	先行研究レビューの作成と発表②	第 18 回	結果の発表とディスカッション①
第 4 回	先行研究レビューの作成と発表③	第 19 回	結果の発表とディスカッション②
第 5 回	研究目的と方法の検討①	第 20 回	結果の発表とディスカッション③
第 6 回	研究目的と方法の検討②	第 21 回	考察の発表とディスカッション①
第 7 回	研究目的と方法の検討③	第 22 回	考察の発表とディスカッション②
第 8 回	調査依頼の方法と倫理的配慮について	第 23 回	考察の発表とディスカッション③
第 9 回	質問紙の作成・実験課題の作成①	第 24 回	卒業論文執筆①
第 10 回	質問紙の作成・実験課題の作成②	第 25 回	卒業論文執筆②
第 11 回	データの収集と整理①	第 26 回	卒業論文執筆③
第 12 回	データの収集と整理②	第 27 回	要旨の作成
第 13 回	データの収集と整理③	第 28 回	卒論発表予行演習①
第 14 回	データ分析①	第 29 回	卒論発表予行演習②
第 15 回	データ分析②	第 30 回	卒論発表予行演習③

到達目標

1. データに基づいて論理的に思考し、思考した内容を文章で表現することができる。
2. プレゼンテーションにおいて、根拠に基づいて主張することができる。
3. 論理的で読みやすい文章を書くことができる。

履修上の注意

- ・欠席や遅刻の場合には必ずチューターに連絡をすること。
- ・専門演習の内容をよく復習すること。
- ・卒業論文の執筆に向けて計画的に取り組むこと。

予習・復習

- 【予習】研究の進捗状況を随時発表していくので、発表資料をまとめること。
- 【復習】発表に対する指導内容を記録し、それに対応すること。

評価方法

卒業論文の内容（70%）、授業での発表（15%）、受講態度（15%）を総合的に評価する。

テキスト

特になし。必要に応じて適宜参考資料を紹介する。

授業概要

これまでの3年間での学びを踏まえ、卒業論文又は卒業研究を執筆する。
学生ごとに興味のあるテーマを設定し、先行研究のレビューを行う。これまでに行われた研究の問題点を明らかにした上で、卒業論文・研究において明らかにしたい事柄（目的）・仮説（予測される結果）を設定する。質問紙法・実験法・面接法などを用いてデータを収集し、得られたデータを分析することで業論文・研究としてまとめる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	関心のある研究論文の発表1	第17回	調査・実験の実施1
第3回	関心のある研究論文の発表2	第18回	調査・実験の実施2
第4回	関心のある研究論文の発表3	第19回	調査・実験の実施3
第5回	テーマの再確認	第20回	調査・実験の実施4
第6回	先行研究のまとめ1	第21回	調査・実験の実施5
第7回	先行研究のまとめ2	第22回	データ解析1
第8回	先行研究のまとめ3	第23回	データ解析2
第9回	先行研究のまとめ4	第24回	データ解析3
第10回	先行研究のまとめ5	第25回	卒業論文の執筆1
第11回	問題点の討論1	第26回	卒業論文の執筆2
第12回	問題点の討論2	第27回	卒業論文の執筆3
第13回	問題点の討論3	第28回	卒業論文の執筆4
第14回	問題点の討論4	第29回	卒業論文の執筆5
第15回	データ収集の準備	第30回	卒業発表予行演習1
		第31回	卒業発表予行演習2

到達目標

- 自分に興味・関心のあるテーマの文献や資料を収集することができる。
- 発表レポートを作成することができる。
- 他の受講生の発表に対して、自分の意見をきちんと表明できる。
- 卒業研究として実行可能な研究を立案できる。
- 心理学科の卒業論文を執筆できる。

履修上の注意

- 卒業論文の提出に向けて、計画的に研究を進めること。
- 学生が主体的に卒業論文の執筆に取り組まなければ、卒業単位を認めない可能性がある。

予習・復習

- 授業、発表準備に時間をかけること。
- 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成したレジュメによって復習をすること。
- 卒業論文執筆のために授業外できちんと取り組むこと。

評価方法

- 提出された卒業論文の内容と1年間の講義態度を踏まえ、総合的に評価する。
卒業論文（60%）、受講態度（40%）

テキスト

- 必要に応じて資料は配布する。
- 参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示する。

授業概要

卒業論文の執筆・提出を目的として、研究テーマの設定、先行研究のレビュー、先行研究の問題点の指摘、卒業論文の目的や仮説の設定を指導する。その上で、様々な方法（質問紙法、実験法、面接法）を用いて、調査研究の実施、データ入力・分析、仮説検証、卒業論文の執筆および発表を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	質問紙作成②
第 2 回	心理学研究の流れ	第 17 回	質問紙作成③
第 3 回	テーマの設定	第 18 回	調査依頼
第 4 回	文献検索	第 19 回	調査実施
第 5 回	研究論文の読み方（調査研究）	第 20 回	コーディング、データ入力
第 6 回	発表担当の振り分け	第 21 回	データ分析①記述統計
第 7 回	論文発表 1	第 22 回	データ分析②推測統計
第 8 回	論文発表 2	第 23 回	結果の読み取りと図表作成
第 9 回	論文発表 3	第 24 回	方法の文章化
第 10 回	論文発表 4	第 25 回	結果の文章化
第 11 回	研究計画の立案	第 26 回	考察の文章化
第 12 回	研究手続きの検討	第 27 回	問題と目的の文章化
第 13 回	尺度の検討	第 28 回	論文提出
第 14 回	質問紙作成①	第 29 回	要旨作成・要旨提出
第 15 回	春学期のまとめ	第 30 回	発表資料の作成
		第 31 回	発表会での研究発表

到達目標

- 卒業論文本文と要旨を執筆できる。
- 研究の発表資料を作成し、研究内容を説明することができる。

履修上の注意

- 心理学の分野の中でも、パーソナリティ心理学、臨床心理学等の領域で卒業論文執筆を希望する方。
- 積極的・主体的に授業および調査研究に参加する姿勢をもつこと。

予習・復習

授業時間内での学習に十分に取り組むこと。

評価方法

卒業論文（70%）、授業への受講態度（30%）をもとに評価する。

テキスト

特になし。必要があれば、授業内で別途指示する。

授業概要

社会人としての幅広い教養と心理学の専門的知識を深め、現代社会の人間関係や組織の中で直面する課題に対し、主体的に取り組むことのできる力を身に付けることを目的とした科目です。特に、知覚心理学・認知心理学・生理心理学などの基礎領域に関するテーマにおける実験的研究を実践し、論文の執筆・提出が行得るよう指導します。まず、各個人で、研究テーマを設置し、先行研究のレビューを行い問題点を整理することで、研究目的や仮説を明確にします。次に、研究目的に沿って、実験を計画・実施します。実験に適した環境（例えば防音/暗室など）を整えるスキルの獲得も大きな課題です。最後に、収集したデータの分析および考察を行ったうえで、卒業論文としてまとめます。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	
第 2 回	研究テーマ選択	第 17 回	
第 3 回	先行研究の精読：問題点の整理	第 18 回	本実験：完了
第 4 回		第 19 回	データ解析
第 5 回		第 20 回	
第 6 回		第 21 回	結果の整理：読み取り・図表作成
第 7 回	研究計画：仮説構築	第 22 回	方法・結果の論文化
第 8 回	目的の論文化	第 23 回	考察
第 9 回	実験計画：手続き・分析の検討	第 24 回	考察の論文化
第 10 回		第 25 回	論文執筆
第 11 回	実験実施準備	第 26 回	
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	予備実験	第 28 回	発表要旨・発表資料（スライド）の作成
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	本実験：開始	第 30 回	
		第 31 回	まとめ

到達目標

- ・自身の興味関心のある心理学的現象について深く理解し説明できる。
- ・研究計画を立案，実施し，その成果を卒業論文または卒業研究としてまとめて報告することができる。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・課題や討論に主体的・積極的に取り組むこと。
- ・授業計画の時期・項目は，研究を計画的に進めるためのマイルストーンであり，その期間に該当事項の進捗報告が求められる。

予習・復習

- ・授業計画の時期・項目に従って計画的に研究を進めるために，授業時間外で多くの活動を自主的に進める。
- ・進捗状態に合わせて随時指導教員と
- ・研究ノートを作成する。

評価方法

授業への参加態度（30%），発表（資料含，20%），卒業論文（50%）から総合的に評価する。

テキスト

テキストは指定しない。授業内で，参考書など必要な資料を適宜紹介します。

授業概要

本授業を履修するまでに習得した心理学研究法に関する基礎的な知識や実践力に基づき、卒業論文の執筆・完成を目指して指導します。

春期前半は、専門演習を経て焦点を絞った個々の興味・関心から、関連する先行研究や書籍を検索・精読して心理学的な研究テーマ及びリサーチクエスチョンを設定します。春期後半は、各リサーチクエスチョンに適した研究計画・方法について、ゼミ内及び教員と討議しながら必要な準備を行います。

秋期前半は、個々に設定した研究計画に基づき、データ収集、入力と分析、結果解釈と図表整理を行い、秋期後半に卒業論文完成・研究発表準備を目指します。

なお、学外の心理支援施設の訪問見学を行い、臨床現場における科学的視点や活動について指導することや、ゼミ研究合宿も検討しています。

授業計画

第 1 回	春期ガイダンス	第 16 回	秋期ガイダンス
第 2 回	研究テーマの明確化と決定	第 17 回	データ収集
第 3 回	：進捗状況を発表し、質疑応答を経て各	第 18 回	：各自設定した研究方法に従って、デー
第 4 回	自の課題を明確化する。	第 19 回	タ収集を行う。
第 5 回	研究テーマに関する文献検索と精読	第 20 回	データ入力及び分析
第 6 回	：研究テーマに関する文献検索と精読を	第 21 回	：収集したデータを入力し、統計的分析
第 7 回	行い、研究課題及び目的を設定する。	第 22 回	を行う。
第 8 回	研究計画立案と方法の検討	第 23 回	結果解釈と図表整理①
第 9 回	：研究課題及び目的に従って、研究計画	第 24 回	：分析結果について読み取り、図表を整
第 10 回	を立案し、具体的な方法を検討する。	第 25 回	理を行う。
第 11 回	研究発表及びデータ収集の準備	第 26 回	卒業論文執筆
第 12 回	：各自発表を行い、質疑応答を経て研究	第 27 回	
第 13 回	の方針を確定する。順次、データ収集の	第 28 回	
第 14 回	準備を進める。	第 29 回	卒業論文完成と発表準備
第 15 回	春期まとめ	第 30 回	：最終化した論文を提出し、卒論発表会
		第 31 回	の準備を行う。

到達目標

- ①研究テーマに関連する先行研究や書籍を検索収集し、精読することができる
- ②リサーチクエスチョンを設定し、研究計画を立案することができる
- ③研究計画に基づき、データ収集と分析が実行できる
- ④データ分析の結果を解釈し、レポートにまとめることができる
- ⑤研究成果について、卒業論文として執筆し、報告することができる
- ⑥卒業論文をスライドにまとめ、発表することができる

履修上の注意

- ・グループ活動や討論に積極的・主体的に取り組み、仲間と協力することが求められます
- ・授業時間外に予習・復習として文献購読や発表準備、レポート作成等に取り組む時間が必要になります
- ・受講生の興味・関心、理解度によっては、各回内容を変更する可能性があります
- ・遅刻や欠席の場合は、必ず連絡すること

予習・復習

各回授業で扱う内容に従って、予習・復習として文献購読、発表準備、データ収集や分析、レポート・スライド作成等を行って頂きます。

評価方法

授業参加態度（20%）、発表内容（30%）、卒業論文（50%）によって総合的に評価します。

テキスト

特に指定しません。適宜授業中に参考図書や文献等を紹介します。

授業概要

専門演習で学んだ一連の研究方法の手続きに従い、興味のあるテーマに沿って先行研究を調べ、研究方計画を立案します。研究計画に基づき、研究を実施し、その成果を卒業論文としてまとめます。具体的には、以下の形式で授業を実施します。

- ・春期は、各自の興味や関心のあるテーマを絞り、文献を調べ、研究計画を立て、発表します。
- ・秋期は、春期に立てた研究計画に基づいて研究を実施します。得られたデータ、解析した結果を考察し、卒業論文を作成します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：研究計画の立て方	第 16 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 2 回	研究計画の立案と進捗状況の発表	第 17 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 3 回	研究計画の立案と進捗状況の発表	第 18 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 4 回	研究計画の立案と進捗状況の発表	第 19 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 5 回	研究目的と方法の検討 1	第 20 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 6 回	研究目的と方法の検討 1	第 21 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 7 回	研究目的と方法の検討 1	第 22 回	結果・考察の発表とディスカッション
第 8 回	研究方法と倫理的配慮について	第 23 回	卒業論文執筆
第 9 回	研究方法と倫理的配慮について	第 24 回	卒業論文執筆
第 10 回	データの収集と整理	第 25 回	卒業論文執筆
第 11 回	データの収集と整理	第 26 回	卒業論文執筆
第 12 回	データの収集と整理	第 27 回	要旨の作成と発表準備
第 13 回	データ分析と結果の整理	第 28 回	卒論発表予行演習
第 14 回	データ分析と結果の整理	第 29 回	卒論発表予行演習
第 15 回	データ分析と結果の整理	第 30 回	卒論発表予行演習

到達目標

- ・必要な研究に関する文献を収集し、その内容を理解することができる
- ・収集した文献に対し、批判的に読むことができ、研究の限界について理解することができる
- ・これまでの研究の限界について理解した上で、研究計画を立案することができる
- ・研究計画に基づいて研究を実施し、その結果を考察し、論文にまとめることができる

履修上の注意

心理学概論Ⅰ・Ⅱ，心理学実験・心理学統計法Ⅰ・Ⅱ，心理学研究法を履修していることが望ましい。春期・秋期ともに、自分で調べたことを毎週発表していただきます。発表内容について、学生および教員でコメントやディスカッションを行っていく形式を中心に授業は進んでいきます。そのため、発表内容に進捗がない場合は、授業が進んでいかないことに注意が必要です。

- ・グループ活動や討論に積極的・主体的に取り組むことが求められます
- ・授業時間外に予習・復習として文献購読や発表準備，レポート作成等に取り組む時間が必要になります

予習・復習

文献収集，文献講読，発表準備，研究計画書作成，レポート作成等の予習を行う。また発表後の指導に基づく復習を行う。その方法については適宜指導する。

評価方法

授業への取り組み姿勢(10%)，卒業論文の内容(90%)を総合的に評価します。

テキスト

特にありません。参考書等は適宜紹介します。

授業概要

卒業論文または卒業研究の執筆を最終目標とし、論文執筆の全プロセスに関して、段階的に指導を行います。春学期は関心のあるテーマの先行研究を幅広くレビューし、自身の研究テーマを明確にしていきます。その後、研究計画を立案し、具体的な実施方法まで、指導教員や他の受講生とのディスカッションを通して具体化していきます。秋学期では計画に沿って研究を実施し、データ収集から解析、論文の執筆までを指導します。また卒業論文や卒業研究への取り組みを通して、卒業後の社会生活においても論理的思考力を発揮し、活躍できる力を伸ばすことを目指します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：春学期の進め方	第 16 回	ガイダンス：秋学期の進め方
第 2 回	テーマに関連する研究論文の発表①	第 17 回	データ収集・解析①
第 3 回	テーマに関連する研究論文の発表②	第 18 回	データ収集・解析②
第 4 回	テーマに関連する研究論文の発表③	第 19 回	データ収集・解析③
第 5 回	テーマに関連する研究論文の発表④	第 20 回	結果と考察の検討①
第 6 回	研究テーマの発表・議論①	第 21 回	結果と考察の検討②
第 7 回	先行研究のレビュー①	第 22 回	結果と考察の検討③
第 8 回	先行研究のレビュー②	第 23 回	卒業論文執筆
第 9 回	先行研究のレビュー③	第 24 回	卒業論文執筆
第 10 回	先行研究のレビュー④	第 25 回	卒業論文執筆
第 11 回	研究テーマの発表・議論②	第 26 回	卒業論文執筆
第 12 回	研究計画の立案	第 27 回	卒業論文発表に向けた準備
第 13 回	研究方法の検討	第 28 回	卒業論文発表の予行練習①
第 14 回	データ収集の準備	第 29 回	卒業論文発表の予行練習②
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	卒業論文発表の予行練習③

到達目標

- ・ 関心のあるテーマに沿った研究論文を収集することができる
- ・ 先行研究のレビューを通して、現状の課題点を自身の研究に落とし込むことができる。
- ・ 実現可能な研究計画を立て、その計画に沿って研究実施できる。
- ・ 得られた結果をもとに、論文を執筆することができる。
- ・ 研究発表に資料の作成および発表や質疑応答を適切に行うことができる。

履修上の注意

- ・ 受講生の積極性、主体性、自主性が求められる演習内容となっています。その点を十分に理解した上で、意欲的に参加してください。
- ・ 無断欠席、遅刻はしないでください。
- ・ 卒業論文または卒業研究の提出に向けて、計画的に取り組んでください。
- ・ 受講生の進捗状況によって、授業内容を変更する可能性があります。

予習・復習

- ・ 計画的に研究が進むよう、授業時間外にも自主的に取り組んでください。
- ・ 発表担当回に向けて、研究の各段階の整理、発表資料の作成をしてもらいます。
- ・ 授業内のディスカッションを踏まえ、自身の研究内容を振り返り、次回の授業までに課題点を復習してください。

評価方法

授業への参加態度（20%）、発表内容（30%）、卒業論文（50%）を総合的に評価します。

テキスト

テキストは使用しません。必要に応じて参考となる文献や資料を紹介します。